

北海道釧路市幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器について

澤田 恭平*

Kamegaoka-type from Nusamai Site in Kushiro City, Hokkaido

Kyohei SAWADA *

1. はじめに

亀ヶ岡式土器は、北海道渡島半島から東北地方全体にかけてみられる縄文晩期の土器群の総称である。江戸時代よりその存在が知られており、青森県つがる市亀ヶ岡遺跡の出土土器にちなんでそう呼ばれている。

山内清男は1930年に岩手県大船渡市大洞貝塚の発掘調査を行った。山内はその調査結果や後の考察から、亀ヶ岡式土器が大洞貝塚の調査地点を基に設定された6型式に細別され、それらが連続的に変遷することを明らかにした(山内1930)。

北海道の亀ヶ岡式土器は、山内の「日本遠古之文化」での指摘以降、出土資料が多い北海道南部のものを中心に扱われてきた。しかし、北海道東部に関しては出土資料が少ないため、ほとんど研究されていなかった。

釧路市には縄文晩期の「幣舞式」「緑ヶ岡式」の標式遺跡となった幣舞遺跡や緑ヶ岡遺跡がある。それらの遺跡から在地産の土器に混じって亀ヶ岡式土器の壺が出土することは、澤田四郎ら地元研究者によって指摘されている。ここでは、幣舞遺跡から出土した亀ヶ岡式土器をとりあげ、資料の充実化を最優先として可能な限りの実測図化を行った。それらの資料を基に幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器について若干の考察を述べるとともに北海道東部における亀ヶ岡式土器の一端を明らかとしたい。

2. 幣舞遺跡の概要

幣舞遺跡は釧路川河口から約1km上流に位置し、釧路市街地を南側から臨むように同川左岸の釧路段丘上の緩斜面に立地している。遺跡の標高は10～25m程で、この一帯は釧路川へと流入する小さな谷によって開析されている。遺跡周辺は古くから官庁街として土地改変が行われてきた場所である。この地域は貝塚や多数の堅穴の存在も確認されており、明治年間、坪井正五郎によって「釧路貝塚」や数十軒もの堅穴の存在が報告されたこともある(坪井1888)。

3. 各調査出土の亀ヶ岡式土器

山内は北海道南部より北方から出土する亀ヶ岡式土器について「より粗製の土器に伴って、亀ヶ岡式精製土器が僅かに混在する」と指摘し、それらは亀ヶ岡文化圏からの輸入、またはその影響下において作成されたとしている(山内1930)。ここでは幣舞遺跡から出

土した縄文晩期の土器の内、器面調整や文様・装飾が在地産の土器とは異なるものを亀ヶ岡式土器として抽出した。

幣舞遺跡は発掘調査が1989・1992・1994年の計3回、工事立会調査が1997年の1回の計4回調査が行われ、それぞれ報告書が刊行されている。また、1989年以前にも釧路市民公民館の着工工事などによって若干の遺物が採集されている。それらの調査によって出土・採集された亀ヶ岡式土器の破片を数えると、その点数は1,014点であった。その中から土器破片の口縁部によって判断した個体数は63個体である。

図示した資料は360点である。文様を有する土器破片については、同一個体の可能性が高いものや小破片であっても総じて掲載している。その他、文様が残存していない壺の胴部破片や底部破片についても併せて載せたが、1992・94年発掘調査及び1997年立会調査の際に出土したものについては、全点掲載はせず文様が残存している破片を優先的に扱った。1992・94年発掘調査については、土器の接合関係や刊行されている報告書の体裁などから併せて扱った。実測図の一部は八戸市教育委員会横山寛剛氏に提供いただいたものを掲載している(図左下に※で提示)。

3-1. 1989年発掘調査以前(第1図1～13)

出土年不明であるほぼ完形の壺が1点、鉢や壺の破片が1957年に4点、1960年に6点、1962年に2点出土している。それぞれ富士見坂、釧路市民公民館付近の工事の際に出土したものと考えられるが、詳細な出土状況については不明である。

3-2. 1989年調査(第1図14～22)

(仮称)釧路市社会教育センター(現釧路市生涯学習センター)建設のため480㎡が調査された。縄文晩期から続縄文の墓壇が9基、土坑が9基検出されている。

亀ヶ岡式土器は調査区中央や西端のⅢ・Ⅳ層から壺の破片が少量出土している。小破片が多く全体形や文様構成を判断できるものはみられない。

3-3. 1992・94年調査(第1図23～第9図159)

1992年に釧路市生涯学習センター外構工事のため911.1㎡、1994年に富士見坂桜ヶ岡通改築事業のため688㎡が調査された。縄文晩期から続縄文にかけての

※ 釧路市埋蔵文化財調査センター

※ Kushiro City Museum

住居跡が4棟、墓壇が88基、土坑が8基、焼土跡が61基検出されている。

亀ヶ岡式土器は1992年調査区中央及び北東端のⅢ・Ⅳ層を中心として、826点の破片が出土している。内、住居跡や墓壇の覆土出土として取り上げている破片が144点みられるが、土器の出土状況から遺物包含層一括と考えられる。

浅鉢・鉢の口縁部・胴部破片10点、壺の口縁部・頸部破片65点・胴部破片175点・底部破片2点の計252点を掲載した。壺の破片が多く、全体形や文様構成が比較的判断しやすいものが4点(89～92)、大型の破片が2点(86・104)みられる。中でも92は大型の壺で、推定の器幅が40.4cm、器高が47.6cmとなる。

3-4. 1997年調査(第9図160～第11図224)

富士見坂桜ヶ岡通改築工事のため、500㎡が調査された。工事立会という調査上、掘削土内の遺物の採集が主体であったため、遺物包含層一括として扱った。

浅鉢・鉢の口縁部・胴部破片5点、壺の口縁部・頸部破片28点・胴部破片51点・底部破片2点の計86点を掲載した。1992・1994年と同様、壺の破片が多く出土している。

4. 亀ヶ岡式土器の器種・器形分類

幣舞遺跡から出土した亀ヶ岡式土器の器種は、全体形が判断できるものは極めて少ないが、浅鉢や壺などに大別できる。

4-1. 浅鉢

口径が器高よりも大きいものである。全体形は逆台形や半円形になると考えられる。口縁部破片で7個体を確認した。

分類基準(1) 口縁部の傾き

- A. 口縁部から胴部が直立気味になるもの。
- B. 口縁部が外側に開き、胴部が膨らむもの。
- C. 口縁部が外側に開き、胴部が直立気味になるもの。
- D. 口縁部が「く」字状に屈曲し、胴部が膨らむもの。

分類基準(2) 口縁部形態

- a. 平縁となるもの。口唇に沈線がめぐりぬるものや突起が付くものもある。
- b. 山形の突起によって波状口縁となるもの。

分類基準(3) 文様の種類

- ①. 胴部に工字文が描かれるもの。
- ②. 胴部に平行沈線がめぐりぬるもの。
- ③. 胴部に変形工字文が描かれるもの。

(浅鉢の分類)

第1類(A a ①): 1個体(30)。口縁部から胴部が直立気味となり、平縁で胴部に工字文が描かれるものであ

る。口縁部内面に沈線が1条めぐり、胴部はLR単節の縄文地となる。磨滅が激しい。

第2類(B a ③): 1個体(24)。口縁部が外側に開き、胴部が膨らみ、平縁で胴部に変形工字文が描かれるものである。口唇及び口縁部内面に沈線がそれぞれ1条めぐりぬる。胴部上半には下方向から先の尖った棒状施文具によって変形工字文が描かれ、胴部下半にはLR単節の縄文が施文される。

第3類(B b ②): 2個体(23・163)。口縁部が外側に開き、胴部が膨らみ、波状口縁で胴部に平行沈線がめぐりぬるものである。23は内外面共に丁寧なミガキによって調整される。波状口縁の先端には2山状の突起が付き、口縁部に沿って内外面に沈線がめぐりぬる。胴部には3条の平行沈線がめぐりぬる。

第4類(C a ②): 1個体(27)。口縁部が外側に開き、胴部が直立気味となり、平縁で胴部に平行沈線がめぐりぬるものである。口縁部にミガキによる無文帯がある。口唇の厚さは薄く、胴部には平行沈線やメガネ状の突起が付く。胴部内面に沈線が1条めぐりぬる。

第5類(D a ②): 2個体(161・162)。口縁部が「く」字状に屈曲し、胴部が膨らみ、平縁で胴部に平行沈線がめぐりぬるものである。やや厚めの口唇に2条の沈線がめぐりぬる。162は磨滅が激しい。

4-2. 鉢

器高と口径がほぼ同じ大きさとなるものである。全体形は逆台形になると考えられる。口縁部破片で5個体を確認した。

分類基準(1) 口縁部の傾き

- A. 口縁部が内湾し、胴部が直立気味になるもの。
- B. 口縁部が外側に開き、胴部が膨らむもの。
- C. 口縁部が屈曲し、胴部が膨らむもの。

分類基準(2) 口縁部形態

- a. 平縁となるもの。口唇に沈線がめぐりぬるものや突起が付くものもある。
- b. 連続する突起によって小波状口縁となるもの。

分類基準(3) 文様の種類

- ①. 口縁部に平行沈線、胴部に文様帯がめぐりぬるもの。
- ②. 胴部に平行沈線がめぐりぬるもの。
- ③. 胴部に変形工字文が描かれるもの。

(鉢の分類)

第1類(A b ②): 1個体(160)。口縁部が内湾し、胴部が直立気味となり、小波状口縁で胴部に平行沈線がめぐりぬるものである。胴部には7条の平行沈線が残存する。

第2類(C a ①): 2個体(6・164)。口縁部が屈曲し、胴部が膨らみ、平縁で口縁部に平行沈線、胴部に文様帯がめぐりぬるものである。6は口唇にコブ状の突起が2

単位残存している。口縁部外面には3条の沈線がめぐり、その下には文様帯がめぐると考えられる。胴部文様の構成は分からないが、爪状の文様が残存している。RL単節の縄文地となる。内面には炭化物が付着している。

第3類 (Ba③) : 2個体 (25・26)。浅鉢第2類とよく似た特徴を持つ。口唇には小振りな突起がある。内面に炭化物が付着している。

4-3. 壺

口頸部がすぼまり、胴部が膨らむものである。幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器は、総破片数の9割以上が壺の破片となるが、そのほとんどが全体形を判断できない胴部破片である。また、口縁部破片についても外面もしくは内面が剥落しているものや口唇が欠損しているものもみられる。口縁部破片に限定してその個体数を調べると51個体を確認した。

分類基準 (1) 口頸部の形状

- A. 頸部が「ハ」字状となり、口縁部が外反するもの。
中には口縁部が受け皿状になるものもある。
- B. 頸部が細くすぼまり、口縁部が外反するもの。
- C. 頸部が直立気味となり、口縁部が外反するもの。
- D. 頸部から口縁部にかけて直立気味となるもの。
- E. 頸部から口縁部にかけて外反するもの。
- F. その他、判断が困難なもの。

分類基準 (2) 胴部の形状

- a. 最大径が上半部にあり、肩が張るもの。
- b. 最大径が中央部にあり、胴部がやや張るもの。
- c. 最大径が中央部にあり、胴部が球形に近いもの。

分類基準 (3) 胴部文様と地文

- ①. 文様を有し、縄文地となるもの。
- ②. 文様を有し、文様帯に縄文が施文されるもの。
- ③. 文様を有し、無地文となるもの。
- ④. 無文・無地文のもの。

(壺の分類)

第1類 (Aa③) 3個体 (89・90・92)。頸部が「ハ」字状にすぼまり、口縁部が外反し、肩が張るものである。口縁部内面には沈線がめぐり、外面には三叉文や沈線によって装飾的となるものが多い。頸部と胴部の境には2個一対の突起が付き、胴部上半には横S字状の配置文をモチーフとした入組雲形文が描かれる。赤彩されているものが目立つ。全体形が判断できない口縁部・胴部破片の多くはこの一群に含まれる可能性が高い。

第2類 (Cb③) : 1個体 (1)。頸部が直立気味となり、口縁部が外反し、胴部がやや張るものである。口縁部装飾は第1類よりも控えめで胴部上半に対称的な三叉文による工字文が描かれる。

第3類 (E) : 4個体 (67～69・173)。いわゆる広口壺

の可能性が高いものである。口縁部内面に沈線がめぐり、やや肥厚する口縁部には1山状や2個一対の突起が付く。

第4類 (c①) : 胴部の形状は球形に近く、縄文地となり幅広の文様帯がめぐり、可能性が高いものを一括した (82・83・192)。地文はRL単節による縄文地となる。

第5類 (②) : 文様を有し、文様帯に縄文が施文されるものを一括した (74～81・84・85・186～191)。全体形や文様構成が判断できるものはないが、やや肩が張り、胴部上半には入組雲形文が描かれると考えられる。LR単節縄文が文様帯に施文され、胴部下半は無地文となる。

第6類 (c④) : 胴部が球形に近くなり、無文・無地文となるものである (94)。

第7類 : その他、第1～6類にあてはまらないものや全体形がわからないものを一括した。

4-4. 土器の胴部文様

幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器の胴部文様は、浅鉢・鉢に変形工字文や工字文が描かれ、壺の胴部上半には工字文や入組雲形文が描かれている。本資料には文様全体の構成が判断できるものや文様復元・推定によってある程度の判断が可能なものが5点ある。ここでは、亀ヶ岡式土器の文様の描き方を提唱した藤沼氏の論考に則り (藤沼 1994, 2008)、その構成や描き方について扱う。

1には工字文が描かれる。文様構成をみると対称的に施された2個一対の横長の三叉文が上下2段に配置され、それによって生じる連続する隆帯文に沈線を施すことで文様が描かれている (第12図)。藤沼氏によると、工字文のような複数の平行沈線によって描かれる文様は、鋸歯状工具によってまず目印となる多条の沈線を描いた可能性が高いと考えられている (藤沼 2008)。

89～92はそれぞれ横長の横S字状の入組雲形文が描かれる。89はやや間延びした配置文が描かれ、配置文の間には充填文が付加されず、配置文同士が組むことで入組雲形文を形成している。沈線は彫り込みが浅く不明瞭である (第4図)。90～92は整然とした配置文が描かれ、その間には工字状や横「し」状の充填文が付加される (第13図)。

幣舞遺跡出土土器における壺の胴部文様構成をみると、1や211のような工字文は全体的に少なく、S字状の入組雲形文が主体となると考えられる。さらに、90～92のような横S字状の配置文の間に工字状ないし三叉状の充填文を描く入組雲形文が多く、89のような配置文同士が入り組むような文様は少ない。

4-5. 土器破片からみた出土傾向

幣舞遺跡から出土した亀ヶ岡式土器の破片をみると、その分布は、1992・1994年調査区南西部の斜面上に比較的集中していることが確認できる。分布が密であった1992・1994年の10ライン以南では、E～I -5・6グリッドに多く、南側斜面を下るように散在的に出土している

(第14図)。この分布域は1989年調査の西端部にも一部及んでいる。また、1994年調査区の北側谷地形となるA-14～16グリッドからも破片が出土しており、さらに1994年調査区から北側に伸ばすように設定された1997年遺物採集区域からも167点の破片が確認されていることから、幣舞遺跡において亀ヶ岡式土器の包含層は少なくとも2か所以上形成されていたと考えられる。

4.6. 幣舞遺跡にみられる亀ヶ岡式土器

幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器を分析した結果、浅鉢が7個体、鉢が5個体、壺が51個体という器種の偏りがみられた。

浅鉢・鉢については浅鉢第1類のような工字文が描かれるものや浅鉢第2類や鉢第3類のような変形工字文が描かれるものあり、型式学的に大洞A～A'式に併行すると考えられる。

壺は総個体数の約8割を占めている。第4・5類のような縄文が施文されるものがみられるが、その主体は第1類である無地文で肩が張る形状の壺となる。壺は比較的大型のものが多く、外面が赤彩され胴部文様帯に横S字状の配置文による入組雲形文が描かれている。器形や文様から類型ごとに多少の差異はみられるものの、その範囲は大洞A式に併行する時期に収まるものである。

これらのことから幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器の内、壺は大洞A式に併行する時期に比較的まとまって搬入されたと考えられる。壺の中でも第1類が多くみられることから、好んで搬入される器形や文様があったのかもしれない。また、浅鉢・鉢の中には変形工字文が描かれるものがあることから、大洞A'式に併行する時期においてもヒトやモノの移動があったと考えられる。

5. おわりに

澤四郎は釧路の亀ヶ岡式土器の壺について大洞C2式からA式期に北海道南部から搬入されたものと考え、幣舞式と亀ヶ岡式土器が併行関係にあることや釧路における亀ヶ岡式土器の出土傾向などを明らかにした(澤1969、1987)。しかし、澤の研究以降、釧路地域における亀ヶ岡文化についての研究は、ほとんどなされておらず、その実態はやや不明瞭であった。

今回、北海道東部における亀ヶ岡式土器の資料の充実化を図るため、幣舞遺跡から出土した亀ヶ岡式土器について報告・未報告資料を含め、できうる限りの資料化を行った。その結果、幣舞遺跡から出土した亀ヶ岡式土器の在り方を分析し、北海道東部における亀ヶ岡式土器の一端を明らかにすることができた。

幣舞遺跡では縄文晩期以降、東北地方の弥生時代に相当する砂沢式以降の土器を窺わせるものも出土している。また、在地産の「緑ヶ岡式」の中にも亀ヶ岡文化の文様の一つである工字文が描かれるものが多数出土していることから、釧路周辺における縄文晩期後葉から続縄文初頭までの文化を渡島半島および東北地方の文化と関

連性がある一つの流れとして捉えることができる。

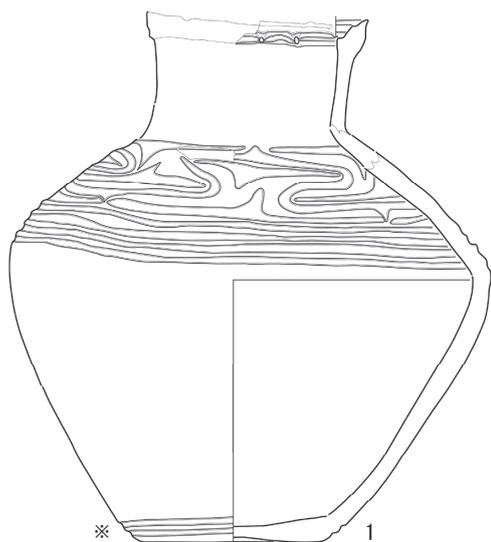
北海道東部は亀ヶ岡文化において、遺物が出土する分布圏の東端付近に位置する。釧路における縄文晩期の在地・非在地土器を相互比較し検証することは、亀ヶ岡文化におけるヒトとモノとの広域的な関わりを明らかにすることに繋がる。今後は、大部分が未報告資料である緑ヶ岡遺跡の出土遺物を中心に資料の充実化を図り、北海道東部における亀ヶ岡式土器や在地産の土器について紹介していきたい。

本稿を作成するにあたり、藤沼邦彦先生、弘前大学関根達人教授には数多くのご指摘をいただきました。また八戸市教育委員会横山寛剛氏、二戸市教育委員会葛川貴祥氏、青森県埋蔵文化財調査センター岡本洋氏をはじめ多くの方にご助言を承りました。ここに感謝いたします。

引用・参考文献

- 藤沼邦彦．1994．文様の描き方－亀ヶ岡式土器の雲形文の場合－．縄文文化の研究5 縄文土器Ⅲ，151-167．雄山閣出版，東京．
- 藤沼邦彦．2008．工字文雑考．芹沢長介先生追悼 考古・民族・歴史学論叢（芹沢長介先生追悼論文集刊行会編），235-250．六一書房，東京．
- 藤沼邦彦・秋山真吾・赤坂朋美・宮本明日香．2008．青森県三戸郡三戸町杉沢遺跡発掘調査報告書（弘前大学人文学部日本考古学研究室研究報告6）．弘前大学人文学部日本考古学研究室，弘前市．
- 釧路市埋蔵文化財調査センター．1990．幣舞遺跡調査報告書．釧路市教育委員会，釧路市．
- 釧路市埋蔵文化財調査センター．1994．幣舞遺跡調査報告書Ⅱ．釧路市教育委員会，釧路市．
- 釧路市埋蔵文化財調査センター．1996．幣舞遺跡調査報告書Ⅲ．釧路市埋蔵文化財調査センター，釧路市．
- 釧路市埋蔵文化財調査センター．1999．幣舞遺跡調査報告書Ⅳ．釧路市埋蔵文化財調査センター，釧路市．
- 澤 四郎．1969．釧路川流域の先史時代 先土器～縄文．釧路川（釧路叢書11），216-266．釧路市．
- 澤 四郎．1987．釧路の先史（釧路叢書24）．釧路市．
- 坪井正五郎．1888．石器時代の遺物遺蹟は何者の手に成たか．東京人類學會雑誌，3（31）：383-403．
- 山内清男．1930．所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末．考古学，1（3）：139-157．

(不明)

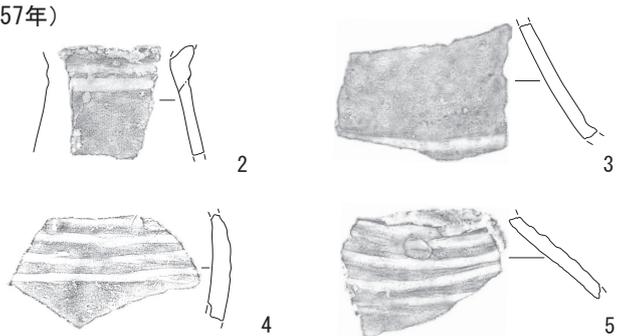


※ 1

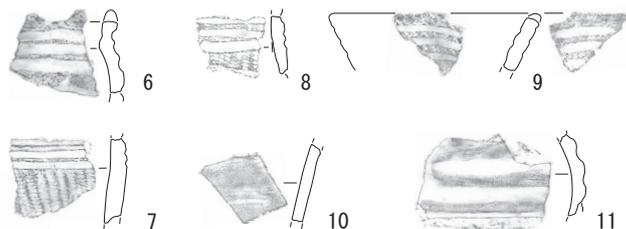


1. 拓本 (33.3%)

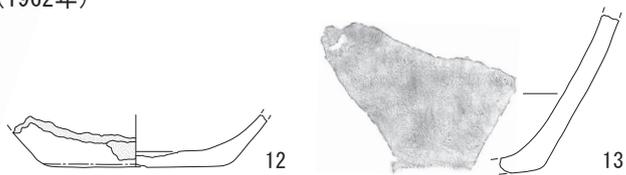
(1957年)



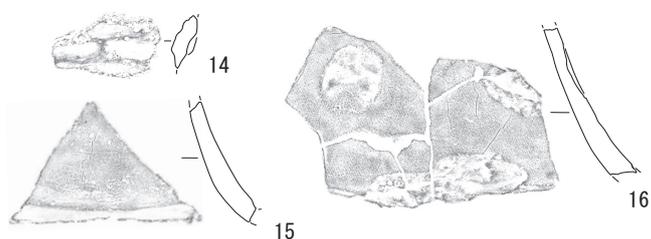
(1960年)



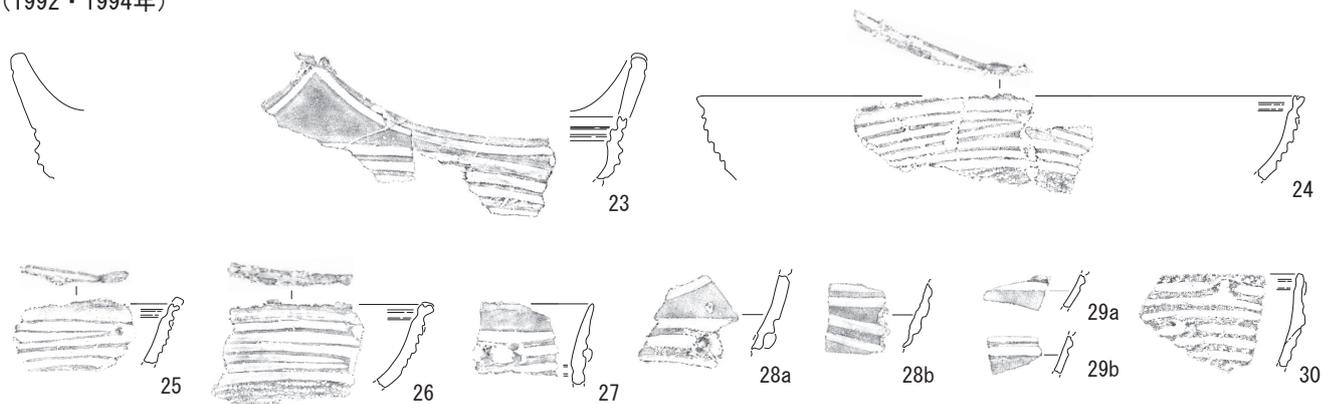
(1962年)



(1989年)



(1992・1994年)

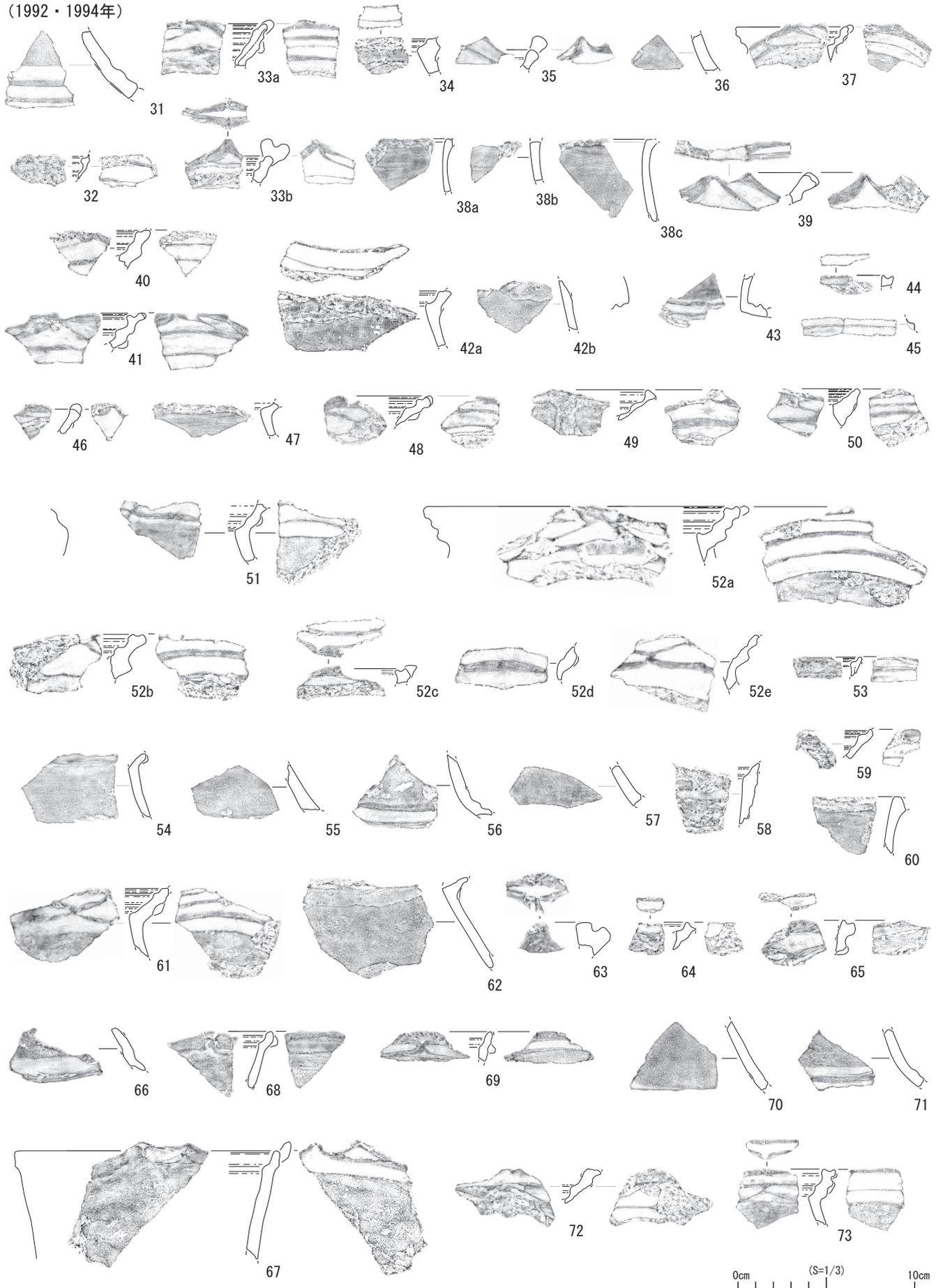


0cm (S=1/3) 10cm

第1図 出土土器 1

※遺物番号内のアルファベット小文字は同一個体

(1992・1994年)



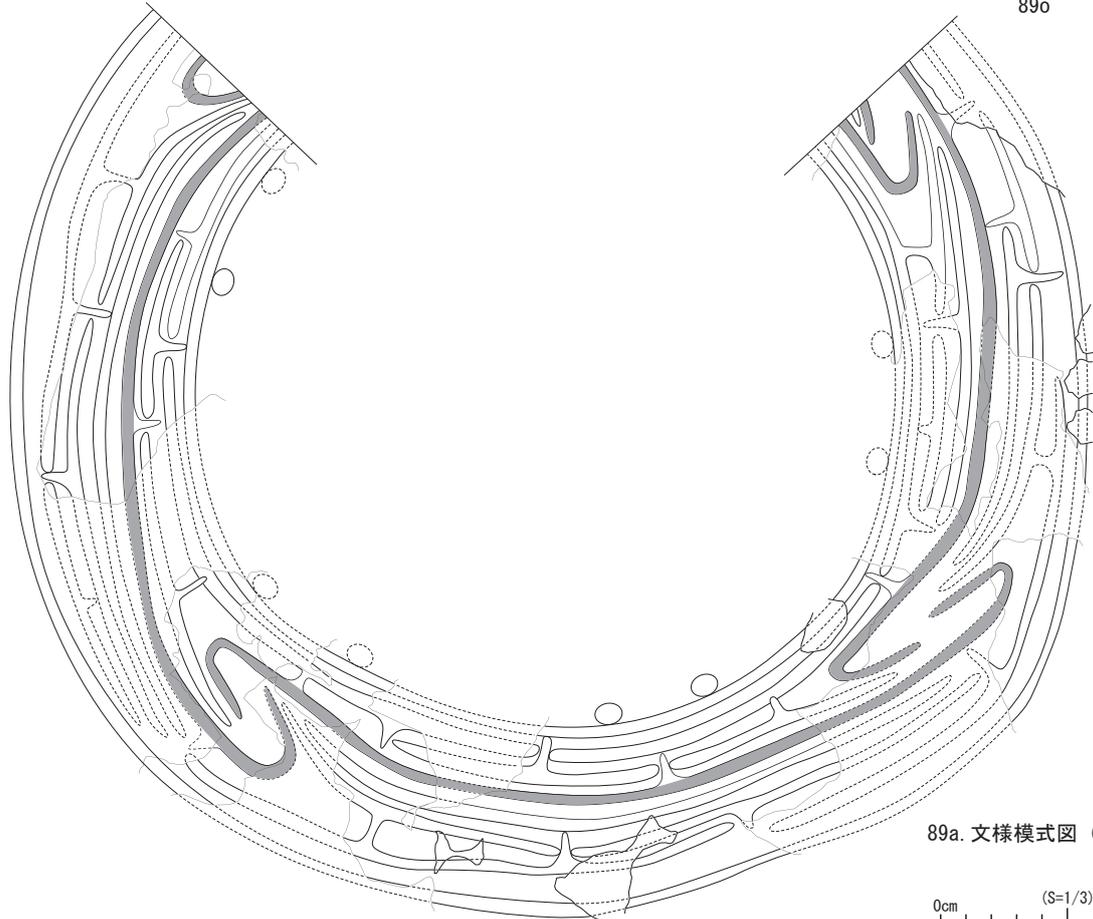
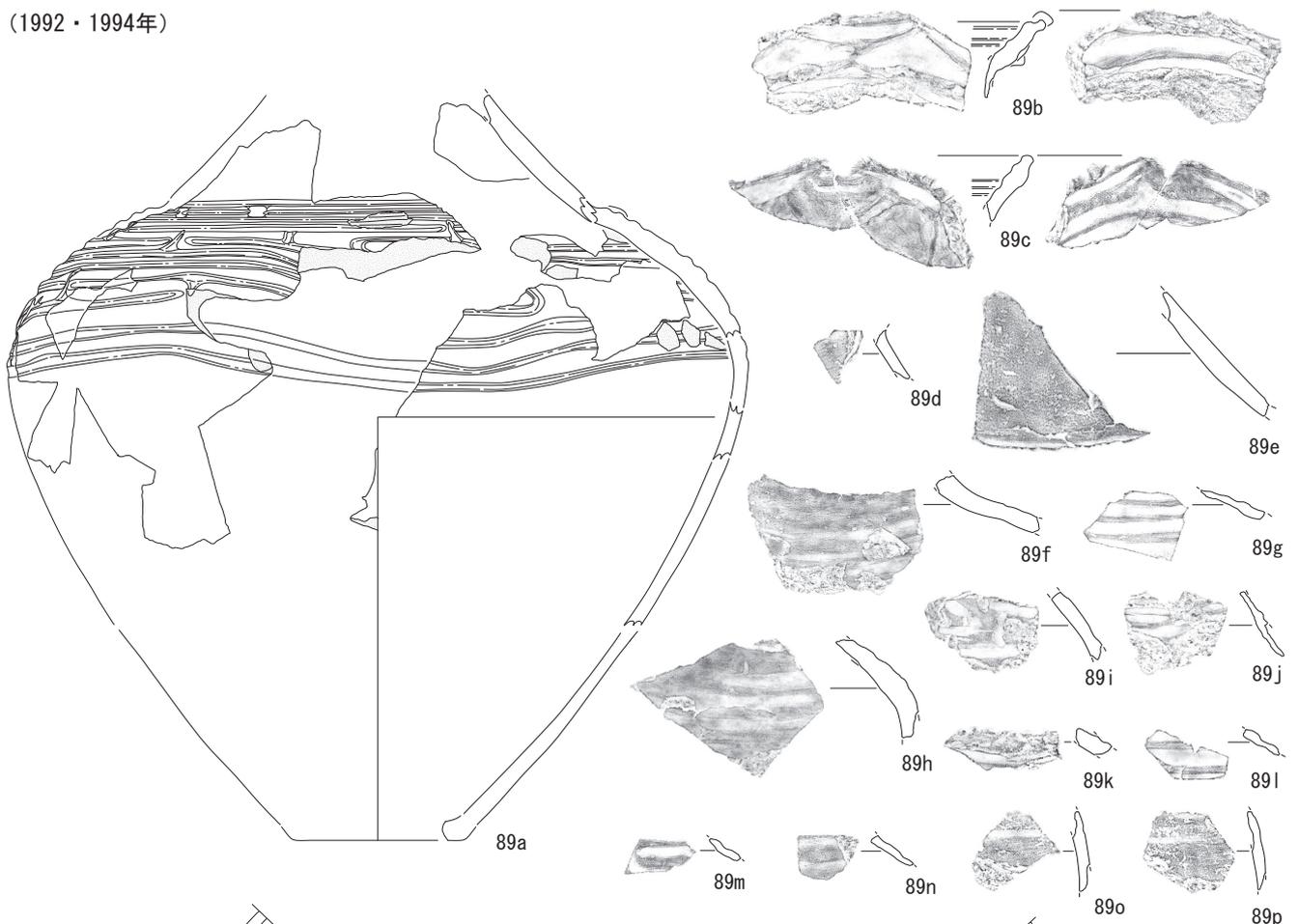
第2図 出土土器2

(1992・1994年)



第3図 出土土器3

(1992・1994年)



89a. 文様模式図 (33.3%)

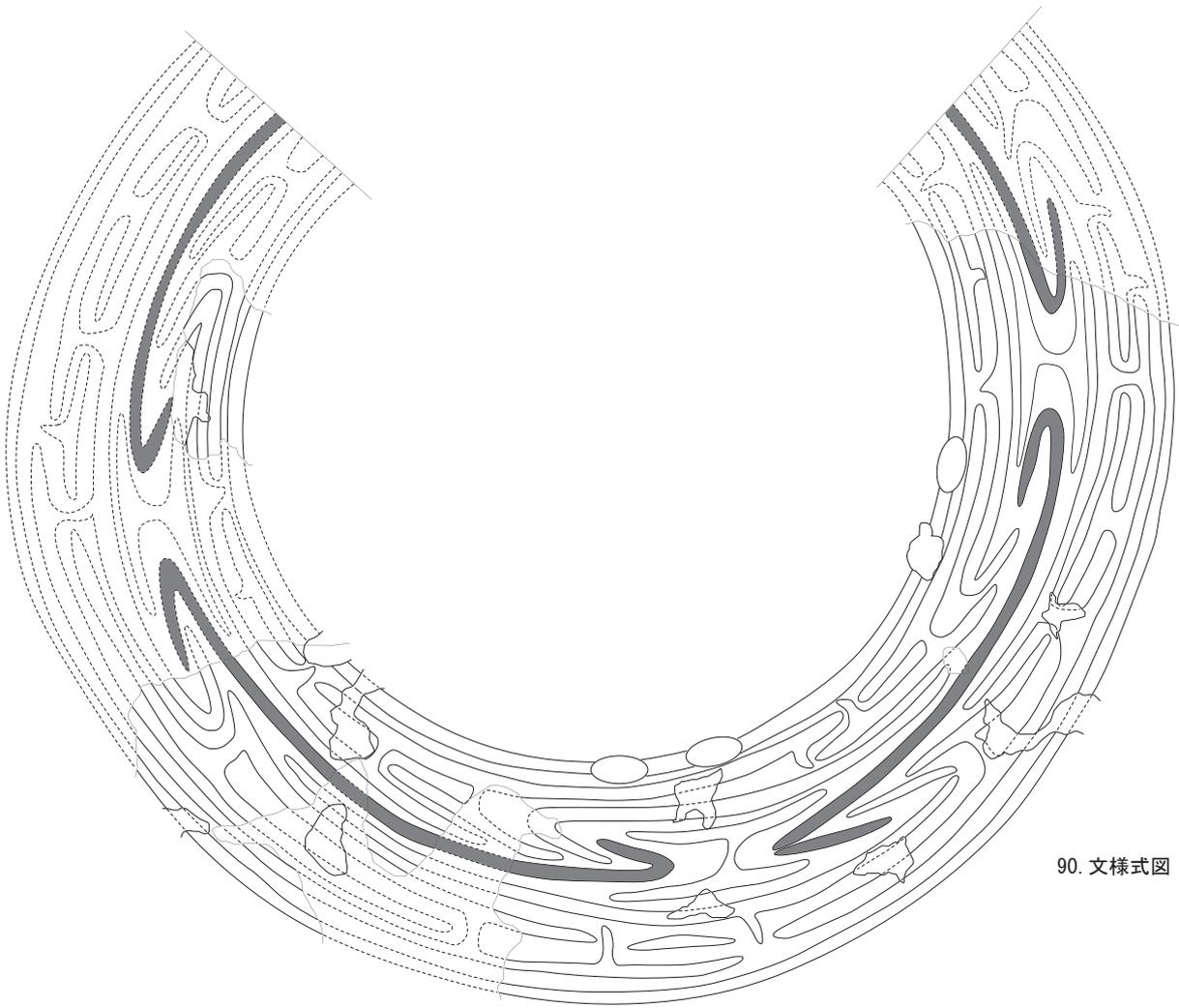
0cm (S=1/3) 10cm

第4図 出土土器4

(1992・1994年)



90. 拓本 (16.5%)

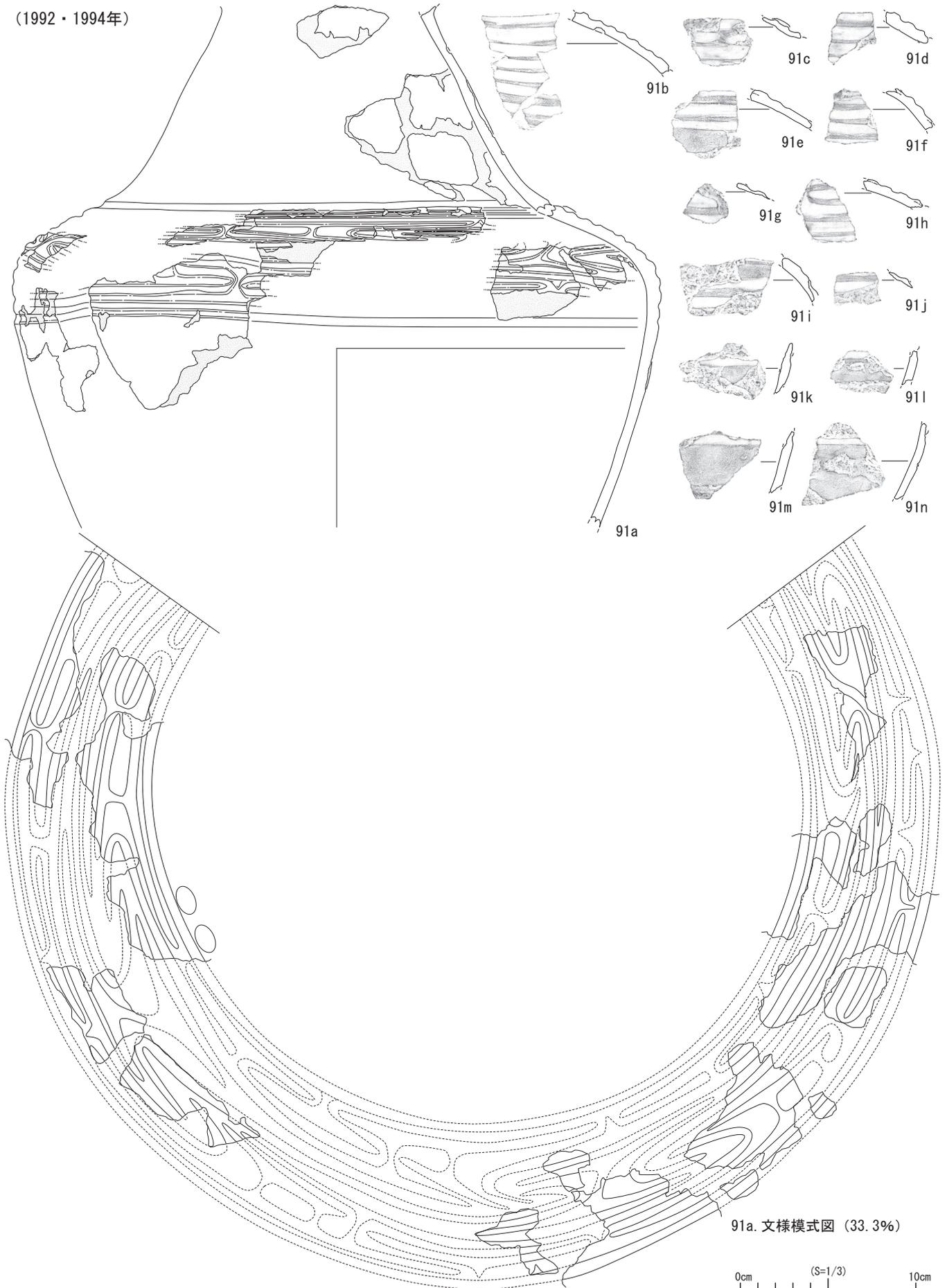


90. 文様式図 (40%)

0cm (S=1/3) 10cm

第5図 出土土器5

(1992・1994年)

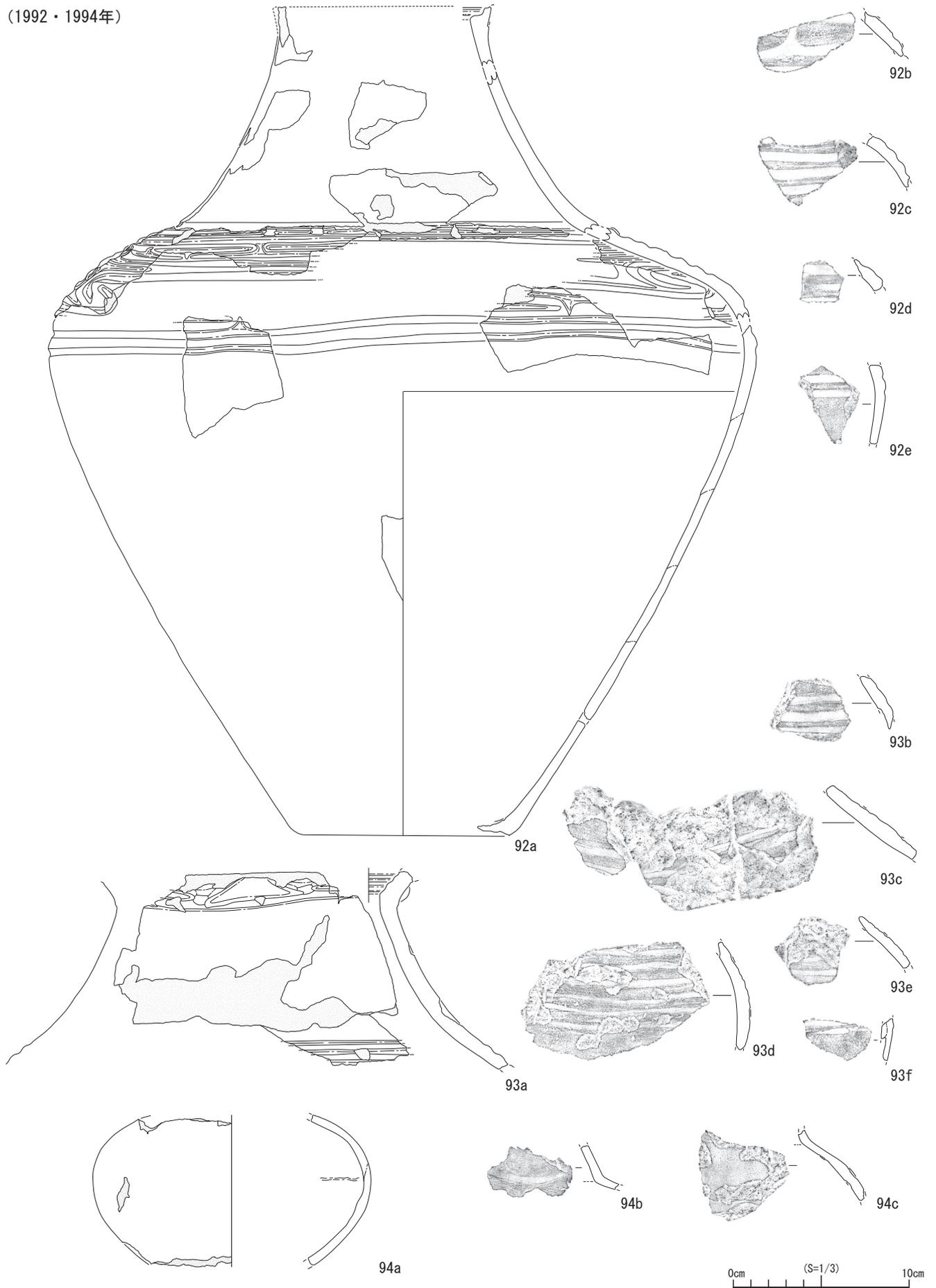


91a. 文様模式図 (33.3%)

0cm (S=1/3) 10cm

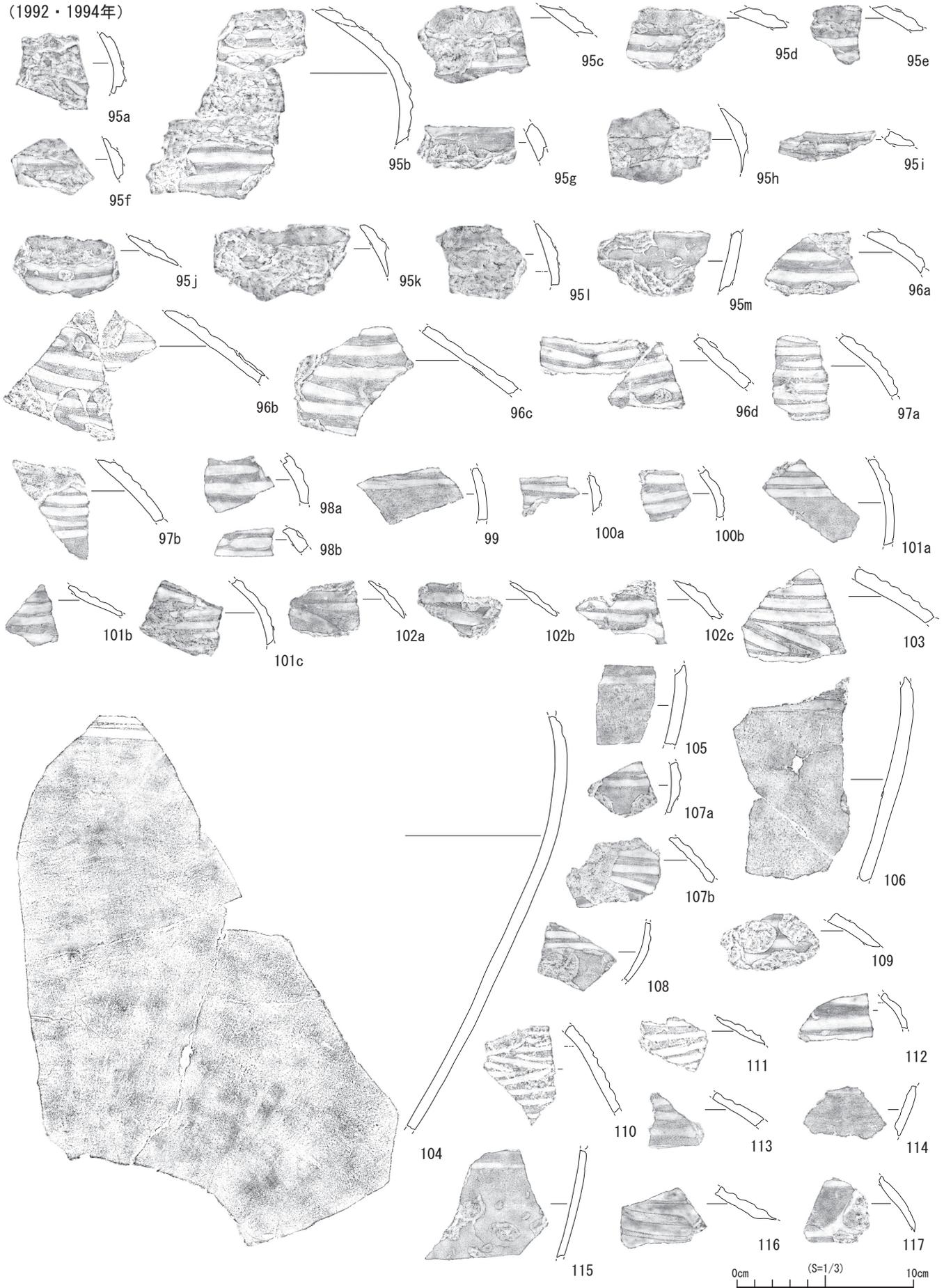
第6図 出土土器6

(1992・1994年)



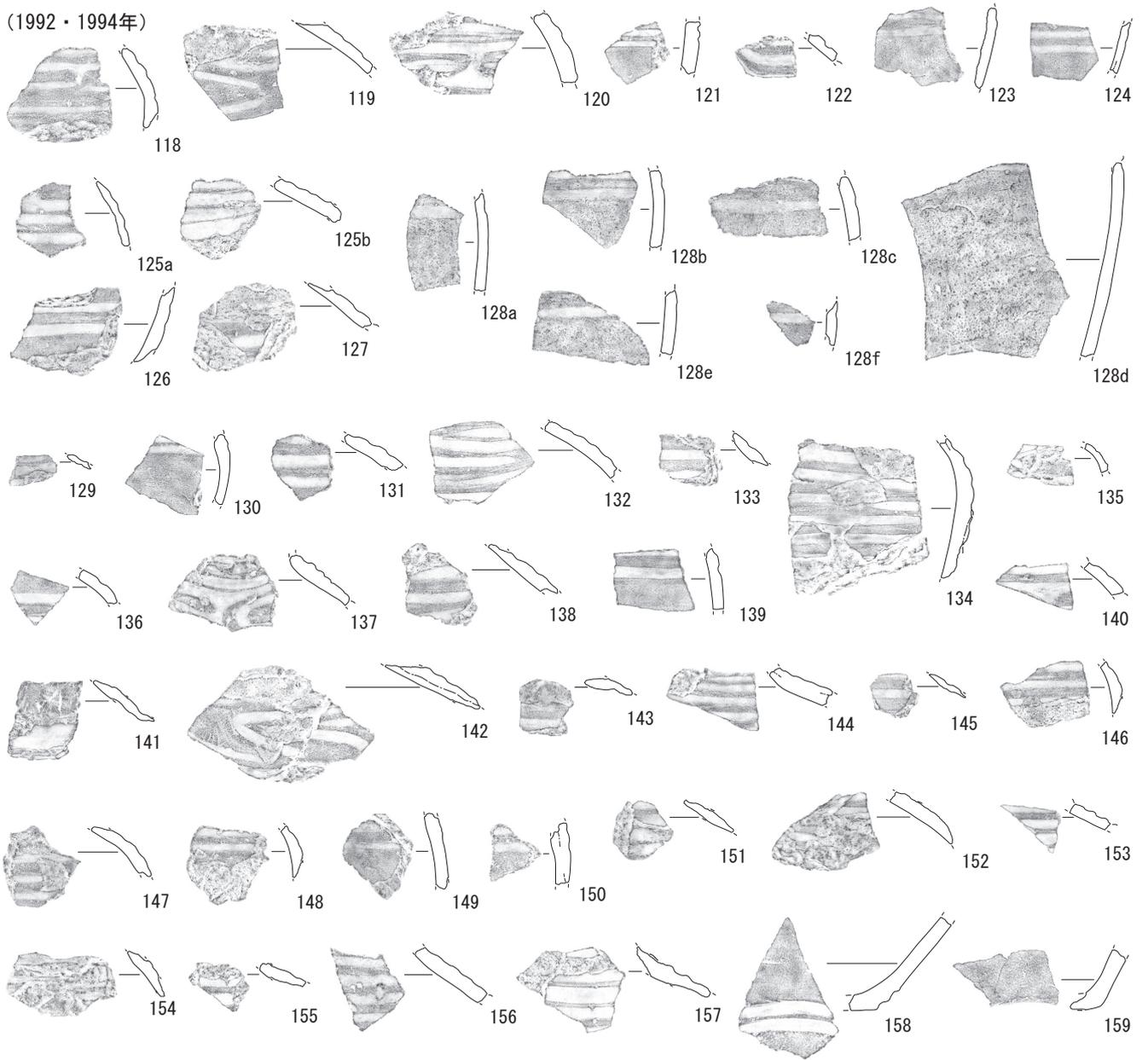
第7図 出土土器7

(1992・1994年)

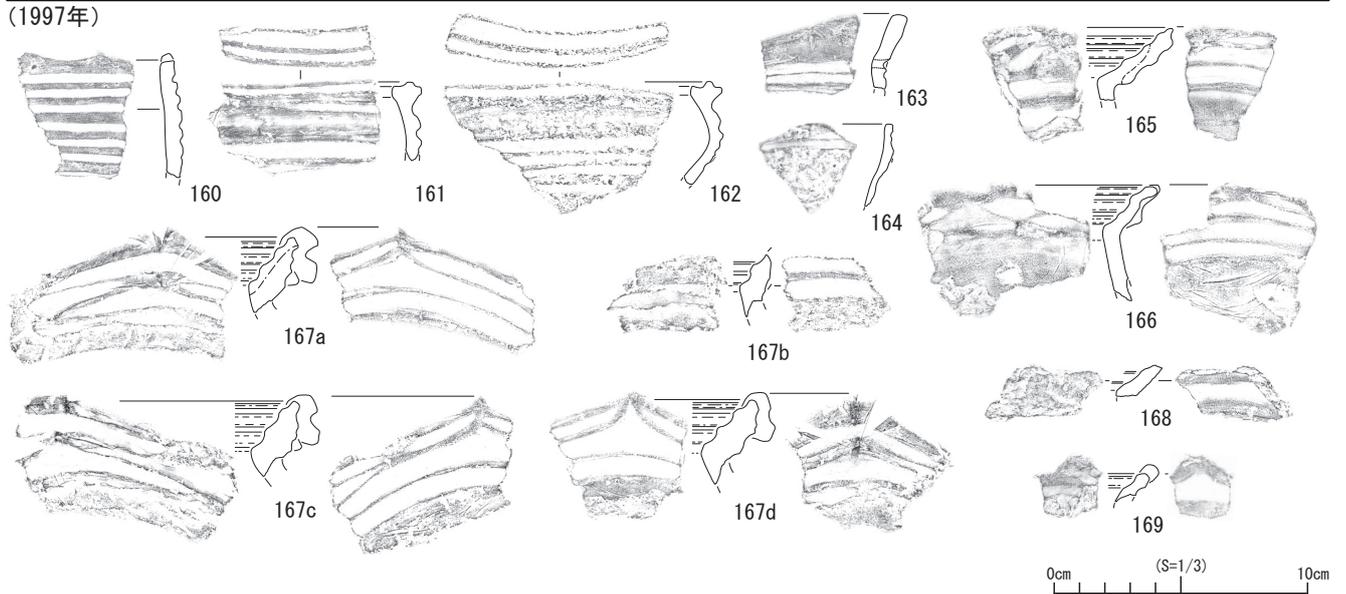


第8図 出土土器8

(1992・1994年)

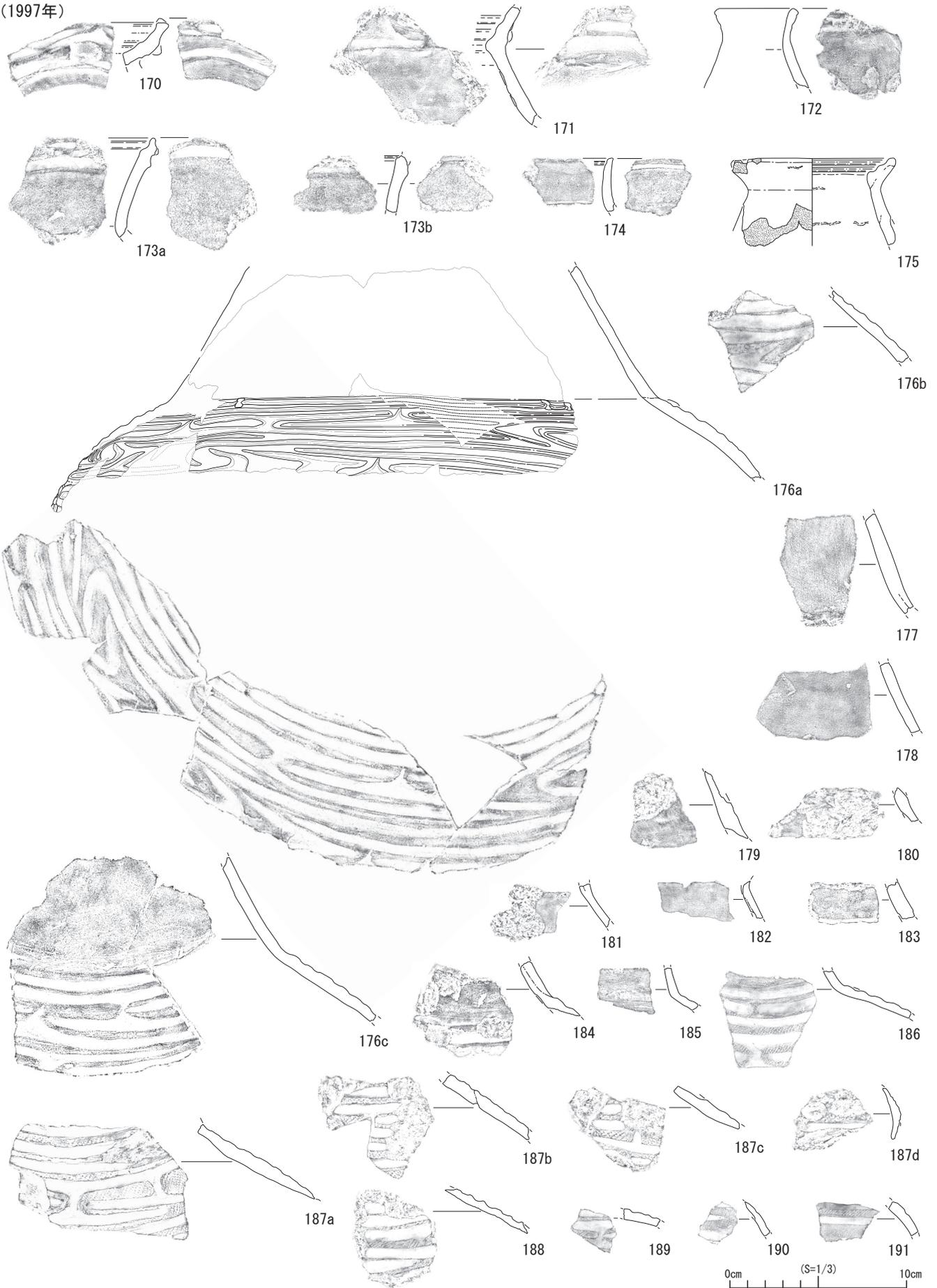


(1997年)



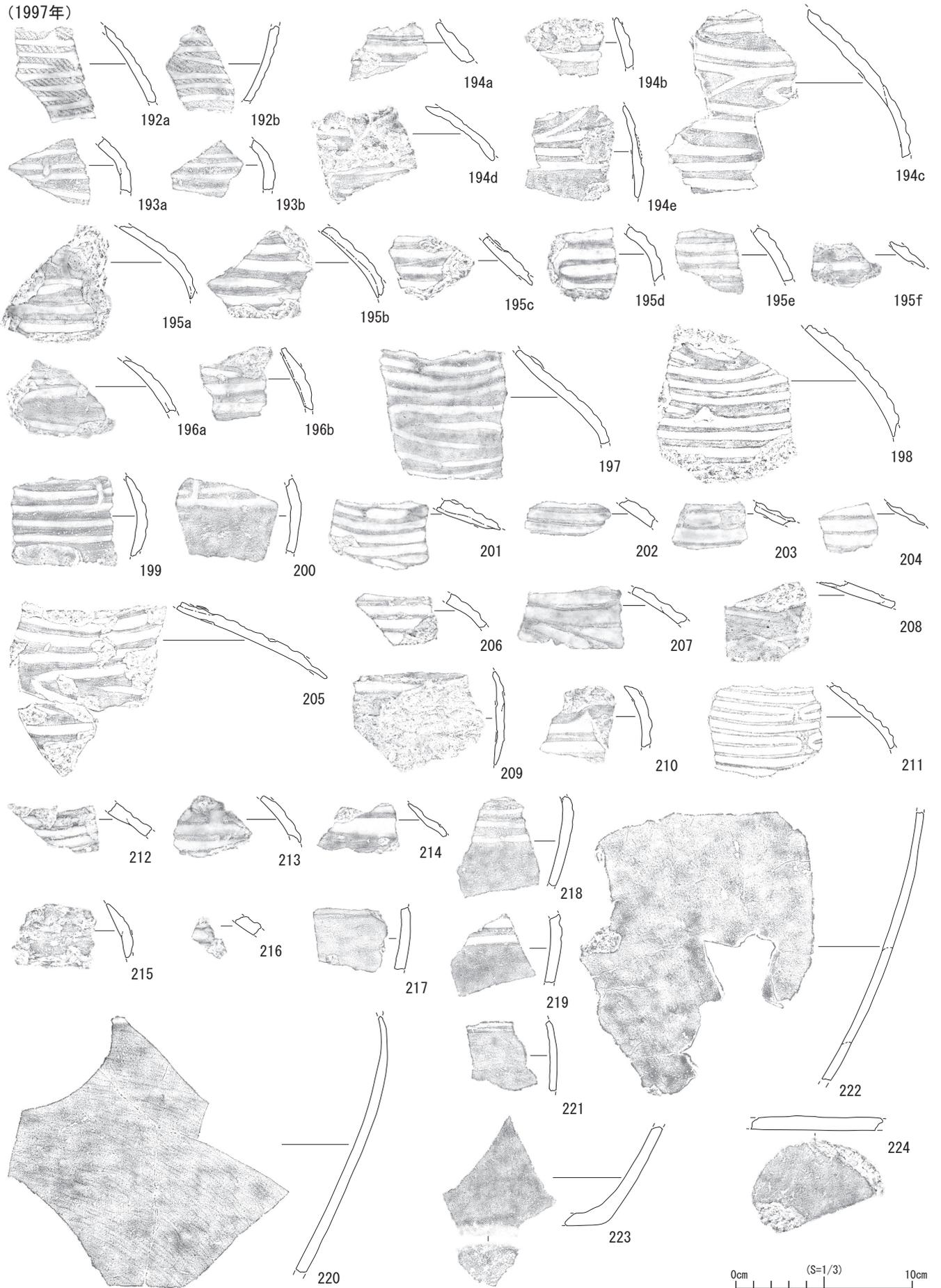
第9図 出土土器9

(1997年)

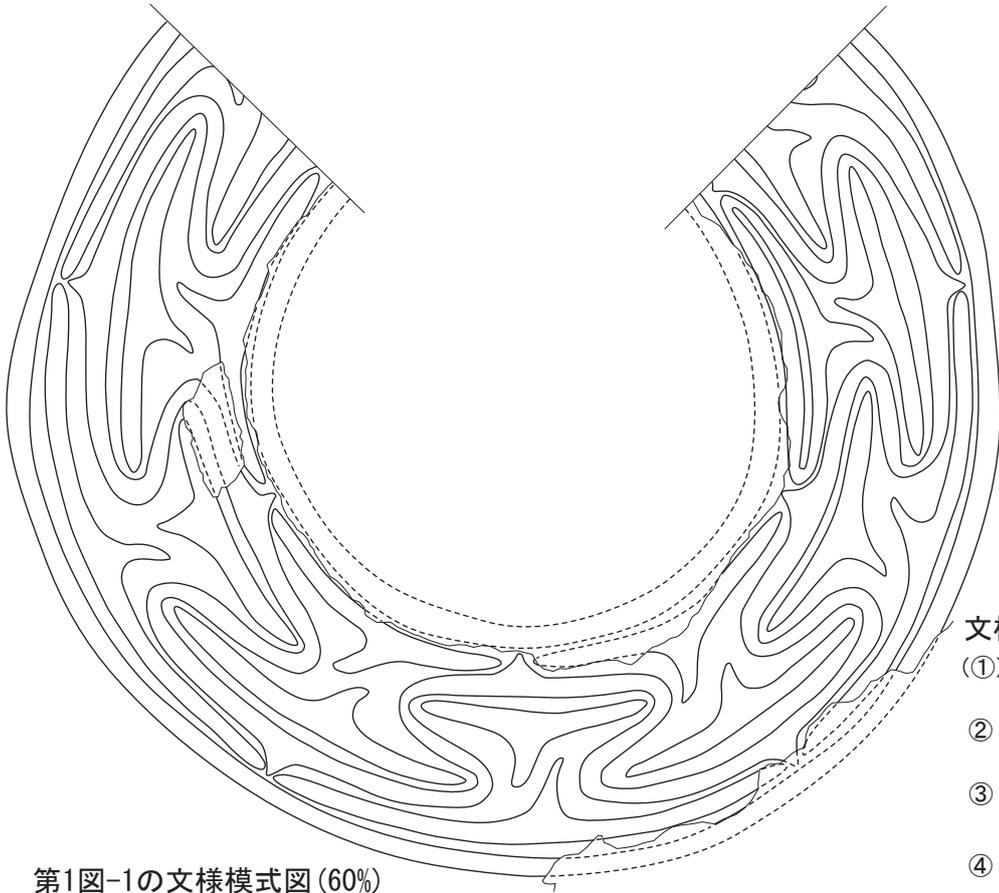


第10図 出土土器10

(1997年)



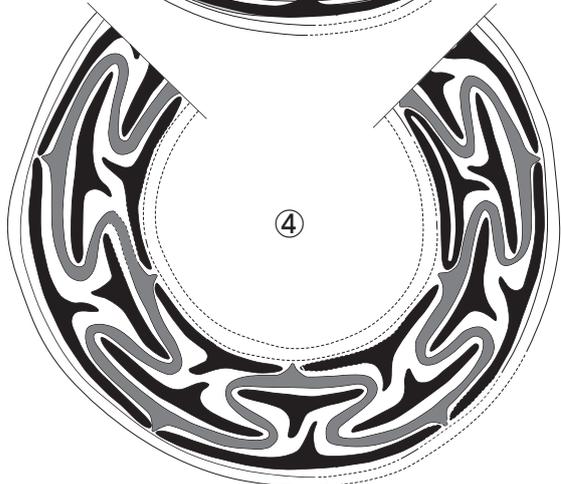
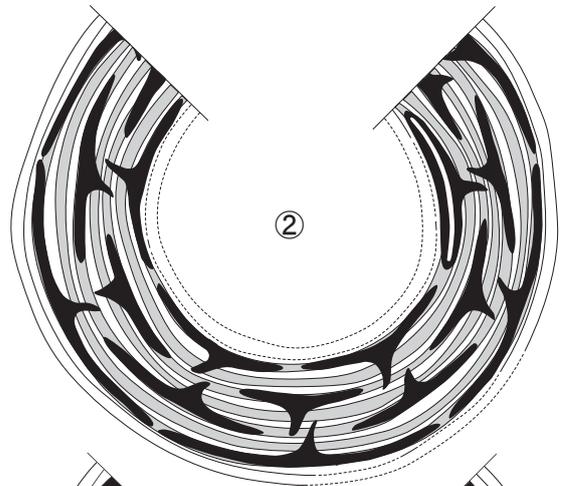
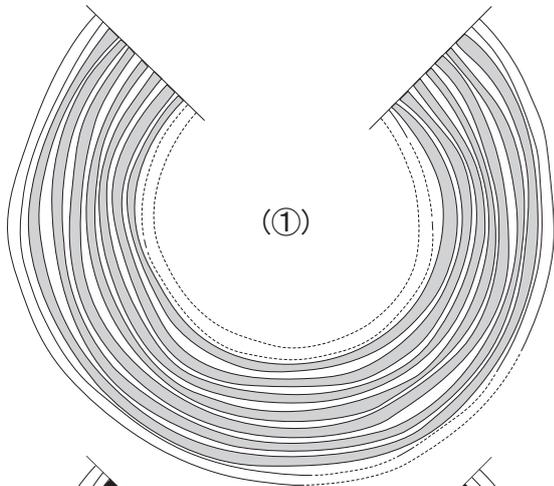
第11図 出土土器11



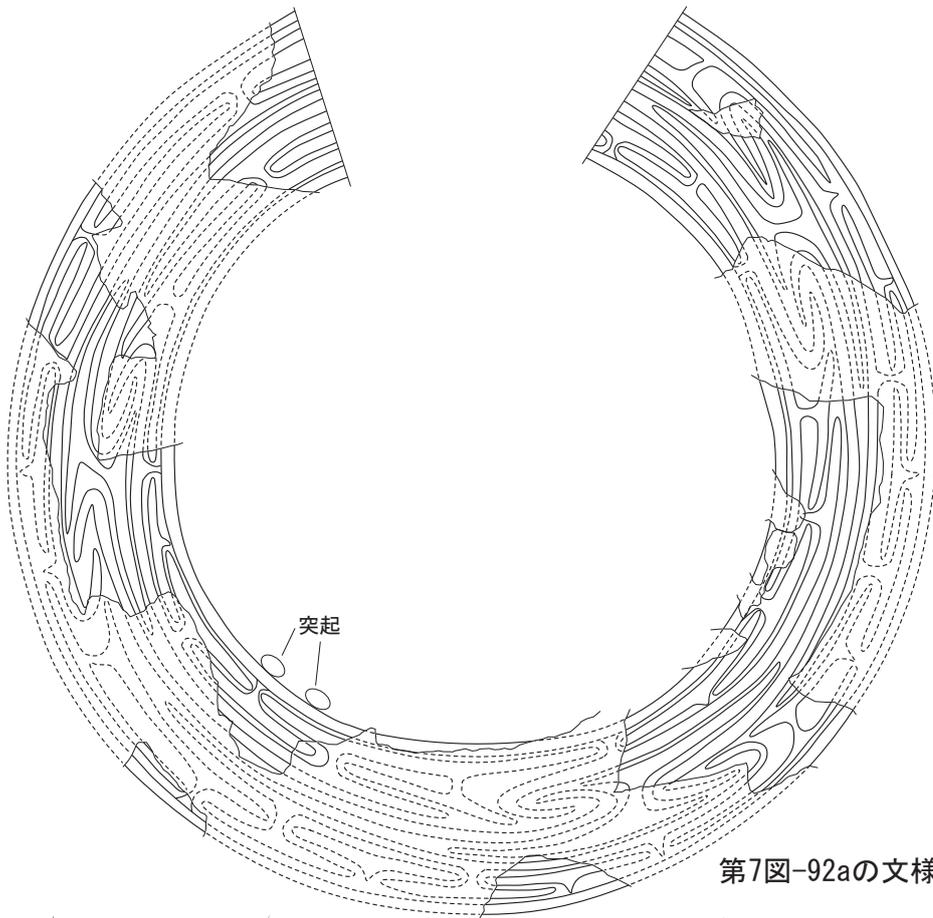
第1図-1の文様模式図(60%)

文様構成

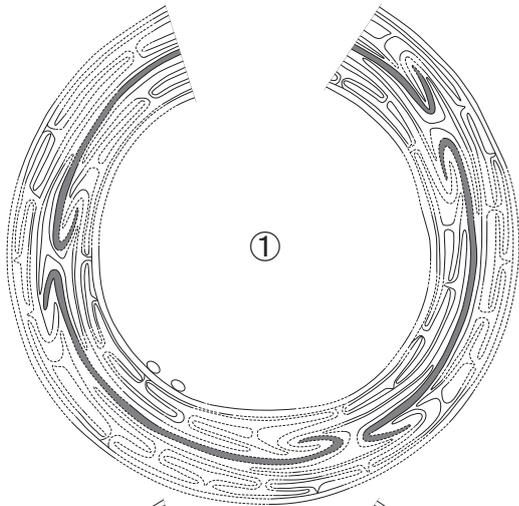
- ① : 文様の目印となる多条の沈線を引く。
- ② : 対称的な2個一対の三叉文を8単位描く。
- ③ : ②の間に連続した配置文を巡らせる。
- ④ : ③に爪状の文様を付加し、①を磨り消す。



第12図 文様分析1



第7図-92aの文様模式図(16.5%)



文様構成

- ① : 横S字状の配置文を3単位描く。
 - ② : ①の間に工字状や横「し」状の充填文を描く。
 - ③ : 「十」状・爪状の充填文を付加する。
- ※90・91aも同様の手法で文様が描かれている。

第13図 文様分析2

北海道釧路市幣舞遺跡出土の亀ヶ岡式土器について

土器観察表

※残存値は()、推定値は< >で記載。幣舞遺跡報告書Ⅰ～Ⅳ(釧埋文1990・1994・1996・1999)はそれぞれ報Ⅰ～Ⅳと略す。

番号	調査年	グリッド・層位	器種	法量(cm)				特徴
				口径	器高	最大径	底径	
1	不明	不明	壺	8.5	20.1	18.9	7	口縁部内面に沈線2条、外面に2個一対の突起が2単位残存。口縁部装飾・頸部から胴部にかけてほぼ欠損。胴上部に工字文が施文。文様は対称的な2個一対となる横長の三叉文が上下2段の計8単位描かれ、その間を沈線がめぐる。底部外面沈線2条。外面・口縁部内面に赤彩。外面剥落。磨滅。
89	1992	79号墓覆土(E-6)、C-5・IV'、D-6・IV、E-5・IV、6・III、IV、V、F-6・IV、H-5・IV	壺	-	<30.6>	30.3	<7.1>	口縁部内面に沈線2条残存、外面に三叉文・沈線・山状突起による装飾。頸部に山状突起が3単位残存(2個一対の突起が推定4単位)。胴上部にS字状の配置文が3単位。文様やや煩雑、沈線彫り込み浅い。外面・口縁部内面に赤彩。外面剥落。海綿骨針混入。
90	1992	E-6・IV	壺	<13.1>	(27.2)	<30.4>	-	口縁部内面に沈線2条、外面に2個一対の突起が2単位残存。口縁部装飾は欠損しているが、単沈線と三叉文によって装飾的な口縁部装飾となる可能性が高い。頸部から胴部にかけて2個一対の突起が2単位残存。胴上部に横S字状の配置文が3単位、工字状、横「し」状、一状の充填文が描かれる。外面・口縁部内面に赤彩。報Ⅳ、Ⅳ-46図21。
91	1992	81号墓覆土(G-6)、C-5・IV'、E-5・IV、F-5・IV、G-5・III、IV、V、6・III、IV、V、H-5・III、IV、6・IV、I-6・IV、7・IV	壺	-	(30.0)	<37.0>	-	口縁部、胴部下半が欠損。外面の剥落激しい。頸部に2個一対の突起が1単位残存。胴上部に横S字状の配置文が3単位、工字状、横「し」状、一状の充填文が描かると考えられる。外面・口縁部内面に赤彩。海綿骨針混入。
92	1992・1994	B-6・IV、E-5・III、6・IV、7・IV、F-3・IV、5・III、VI、6・I、III、G-4・IV、5・III、IV、V、6・IV、H-5・III、IV、V、6・III、IV、I-5・III、6・IV、J-6・IV	壺	<12.0>	<47.6>	<40.4>	<11.8>	口縁部、胴部下半が欠損。口縁部内面に沈線1単位残存。頸部に2個一対の突起が1単位残存。胴上部に横S字状の配置文が3単位、工字状、横「し」状、一状の充填文が描かると考えられる。外面・口縁部内面に赤彩。海綿骨針混入。
93	1992・1994	79号墓覆土(E-6)、D-6・IV、E-7・V、F-6・IV、H-4・III、5・III	壺	-	(11.3)	-	-	口縁部～胴上部残存。口唇欠損。口縁部に三叉文・沈線による装飾、山状の突起が2単位残存。胴部に沈線が3条残存。口縁部・胴部外面に一部赤色顔料残存。内外面剥落。石英多量混入。磨滅。
94	1992・1994	C-6・IV'、D-7・I	壺	-	(8.8)	<15.8>	-	頸部～胴部破片。無文。海綿骨針混入。焼成良好。外面一部剥落。
175	1997	-	壺	9.1	(5.0)	-	-	平縁。口縁部内面に沈線が3条。口縁部内面に輪積痕。内外面に赤彩。
176	1997	-	壺	-	(13.9)	(40.2)	-	口縁部・胴部下半が欠損。頸部に突起が1単位残存。横S字状の配置文が描かれる。海綿骨針混入。報Ⅳ、Ⅳ-5図80・84。

土器破片一覧

※赤彩：内=内面 外=外面 骨針=海綿骨針混入の有無

番号	調査年	グリッド・層位	器種	部位	赤彩	骨針	備考	番号	調査年	グリッド・層位	器種	部位	赤彩	骨針	備考
2	1957	不明	壺	口縁部	-	-	口唇剥離。公民館。	42	1994	59号墓覆土(F-3) C-5・IV'	壺	口縁部	内	有	口縁部装飾剥落
3	1957	不明	壺	口頭部	外	有	公民館。	43	1994	C-5・IV'	壺	頸部	-	-	推定残存器幅8.8cm。
4	1957	不明	壺	胴部	外	有	公民館。	44	1994	D-3・IV	壺	口縁部	-	-	
5	1957	不明	壺	胴部	外	有	内面剥落。公民館。	45	1994	D-3・IV	壺	頸部	外	-	
6	1960	赤褐と黒の中間(2)	鉢	口縁部	-	-	内面煤付着。RL単節。9.20採集。	46	1994	D-4・III	壺	口縁部	内外	有	
7	1960	赤褐と黒の中間(1)	鉢	胴部	-	-	外面煤付着。LR単節(多条)。9.20採集。	47	1994	D-4・IV	壺	口縁部	内	-	
8	1960	不明	鉢	胴部	-	-	内面剥落。LR単節(多条)。公民館。	48	1994	D-5・III	壺	口縁部	内外	有	磨滅。
9	1960	黒土(1)	壺	口縁部	-	-	RL単節。	49	1994	D-5・IV	壺	口縁部	内	-	外面剥落。
10	1960	不明	鉢?	胴部	外	有	内外面ミガキ。公民館。	50	1992	D-6・IV	壺	口縁部	内外	有	
11	1960	赤褐と黒の中間(2)	壺	胴部	外	有	9.20採集。	51	1992	D-6・IV	壺	口縁部	内外	-	
12	1962	3区	壺	底部	外	有	外面ミガキ。	52	1992・1994	E-5・III、6・IV、G-5・IV、H-2・III、5・IV	壺	口縁部	外	有	
13	1962	不明	壺	底部	-	有		53	1992	E-6・IV	壺	口縁部	内	有	内面剥落。
14	1989	O-4・IV	壺	口縁部	内外	有	剥離激しい。	54	1992	E-6・IV	壺	口縁部	外	有	
15	1989	P-5・III	壺	頸部	内	有		55	1992	E-6・IV	壺	頸部	-	有	
16	1989	O-4・IV	壺	頸部	-	有		56	1992	E-7・V	壺	頸部	外	有	磨滅。
17	1989	U-10・III	壺	胴部	内外	有	報告書Ⅰ第61図3、87a接合。	57	1992	F-5・IV	壺	頸部?	-	有	
18	1989	U-9・カクラン	壺	胴部	外	-	磨滅。	58	1992	F-6・VI	壺	口縁部	-	-	外面剥落。磨滅。
19	1989	U-9・III	壺	胴部	外	有	磨滅。	59	1992	F-7・VI	壺	口縁部	内	-	口唇欠損。外面剥落。
20	1989	U-9・IV	壺	胴部	-	有	内外剥落。内傾接合。内面煤?付着。	60	1992	F-7・V	壺	口縁部	内	有	
21	1989	S-8・IV	壺	胴部?	外	有		61	1992	F-7・VI	壺	口縁部	-	有	
22	1989	S-8・IV	壺	胴部	外	-		62	1994	G-3・IV	壺	頸部	-	-	石英多量。口縁装飾剥落か。
23	1992	G-6・IV	浅鉢	口縁部	-	-	報Ⅲ第94図243・245。口径(24.6cm)	63	1994	G-3・IV	壺	口縁部	内外	-	口縁部突起の一部。
24	1994	D-5・IV	浅鉢	口縁部	-	-	変形工字文。LR単節。報Ⅲ第94図239。口径(24.0cm)	64	1992	G-5・IV	壺	口縁部	内	有	外面剥落。
25	1994	D-5・III	鉢	口縁部	-	-	変形工字文。報Ⅲ第94図241。	65	1992	G-6・IV	壺	口縁部	内外	有	
26	1994	D-6・IV	鉢	口縁部	-	-	変形工字文。LR単節。報Ⅲ第94図240。	66	1992	H-5・IV	壺	頸部	-	-	内面剥落。磨滅。
27	1994	D-4・IV	浅鉢	口縁部	-	-	報Ⅲ第94図244。	67	1992	H-5・IV	壺	口縁部	-	-	口径(14.9cm)
28	1994	D-4・IV	浅鉢	口縁部	-	-	変形工字文。内面剥落。	68	1992	H-5・V	壺	口縁部	-	-	
29	1992	E-7・IV、H-6・IV	浅鉢	胴部	-	-		69	1992	H-6・IV	壺	口縁部	外	-	RL単節。
30	1994	F-4・IV	浅鉢	口縁部	-	-	工字文。LR単節。報Ⅳ第94図235。	70	1992	H-6・III	壺	頸部	-	有	内面一部剥落。
31	1992	79号墓覆土(E-6)	壺	頸部	-	有		71	1992	I-5・IV	壺	頸部	外	-	
32	1994	A-15・IV	壺	口縁部	内	-	外面剥落。	72	1992	H-6・IV	壺	口縁部	内外	有	口唇欠損。内外面剥落。
33	1994	A-14・IV、A-15・IV	壺	口縁部	-	有		73	1992	I-7・カクラン	壺	口縁部	内外	有	
34	1994	A-15・IV	壺	口縁部	外	-	口縁部装飾剥落。	74	1992・1994	B-6・IV'、C-4・III、F-5・IV、G-5・IV、6・IV、H-6・III、I-3・III、IV、6・IV	壺	胴部	外	有	LR単節。
35	1994	A-16・カクラン	壺	口縁部	内外	-		75	1994	101号墓覆土(G-4)	壺	胴部	-	有	LR単節。報Ⅲ第45図1。
36	1994	A-16・III	壺	頸部	-	-		76	1994	B-6・I	壺	胴部	外	-	LR単節?
37	1994	B-4・IV	壺	口縁部	内外	-	口径(6.3cm)。	77	1994	C-4・I	壺	胴部	-	有	LR単節。
38	1994	C-4・IV、IV'	壺	口縁部	内	有		78	1992	E-7・IV	壺	胴部	-	有	LR単節。内外面剥落。
39	1994	C-4・IV'	壺	口縁部	内外	-		79	1994	F-2・III	壺	胴部	-	-	LR単節。三叉文?残存。
40	1994	C-4・IV'	壺	口縁部	内外	-									
41	1994	C-4・IV'	壺	口縁部	内外	-									

澤田 恭平

番号	調査年	グリッド・層位	器種	部位	赤彩	骨針	備考
80	1994	F-5・IV	壺	胴部	-	有	LR単節。
81	1992	G-5・III	壺	胴部	-	有	LR単節。
82	1992	G-7・IV、H-6・IV	壺	胴部	-	有	RL単節。
83	1994	F-46焼土(C~D-5)	壺	胴部	赤彩	-	RL単節。調整良好。報Ⅲ第53図9。
84	1992	H-5・III、6・IV	壺	胴部	外	有	LR単節。
85	1992・1994	79号墓覆土(E-6)、D-3・IV、5・IV、6・III、E-3・III、5・IV、6・IV、F-5・III・IV、V、VI、G-3・IV、5・IV、V、H-6・IV、I-3・III、7・III、K-5・IV	壺	頸部・胴部	外	有	LR単節。
86	1992・94・97	77号墓覆土(E-6)、C-5・IV、E-6・IV、F-6・V、G-5・III、IV、6・IV、J-5・IV、97年	壺	胴部	外	有	内外面剥落。器幅(36.0cm)。
87	1992	H-5・IV、H-6・IV、K-5・IV	壺	胴部	外	有	報Ⅲ第89図164・165。
88	1992・1994	59号墓覆土(F-3)、A-15・IV、C-5・IV、D-6・IV、E-5・III、6・III、F-5・III、6・IV、7・IV	壺	胴部	-	有	内面剥落。
95	1992	I-5・III、6・IV、I-7・IV	壺	胴部	-	有	外面剥落。
96	1992・1994	D-3・IV、6・IV、F-5・IV、G-5・IV、J-5・IV	壺	胴部	外	-	外面剥落。200と同一か。
97	1994	A-16、カクラン、F-3・III	壺	胴部	外	-	磨滅。
98	1994	C-5・IV、E-5・III	壺	胴部	-	有	
99	1994	A-14・IV	壺	胴部	外	有	石莢多量。
100	1994	A-14、カクラン、15・IV	壺	胴部	外	-	
101	1994	A-15・IV、16・IV、カクラン	壺	胴部	外	有	外面剥落。磨滅。
102	1994	A-15・カクラン、16・カクラン	壺	胴部	外	-	内面剥落。
103	1994	A-16・III	壺	胴部	外	有	
104	1994	17号住居土(B-6)、B-6・IV	壺	胴部	外	-	胎土が固く締まる。
105	1994	B-4・IV	壺	胴部	外	-	
106	1994	B-5・IV	壺	胴部	外	-	内外面一部剥落。
107	1994	B-6・I、G-6・III	壺	胴部	外	有	内外面剥落。
108	1994	B-6・III	壺	胴部	外	有	
109	1994	C-3・IV	壺	胴部	外	有	内外面剥落。調整粗。
110	1994	C-4・III	壺	胴部	-	-	磨滅。
111	1994	C-4・III	壺	胴部	-	-	内面剥落。
112	1994	C-4・IV	壺	胴部	外	-	
113	1994	C-4・IV	壺	胴部	外	-	
114	1994	C-5・IV	壺	胴部	外	-	内面剥落。
115	1994	C-5・IV	壺	胴部	外	有	外面剥落。
116	1994	C-5・IV	壺	胴部	外	有	内面剥落。
117	1994	C-7・IV	壺	胴部	外	有	外面一部剥落。
118	1994	D-4・III	壺	胴部	外	有	磨滅。
119	1994	D-6・IV	壺	胴部	外	有	
120	1994	D-6・IV	壺	胴部	外	-	
121	1994	E-5・III	壺	胴部	-	有	
122	1994	E-5・IV	壺	胴部	-	-	内面剥落。
123	1994	E-5・IV	壺	胴部	外	有	内面剥落。
124	1992	E-5・V	壺	胴部	-	有	沈線浅い。磨滅。
125	1992	E-6・III、7・III	壺	胴部	外	-	内面剥落。磨滅。
126	1992	E-7・III	壺	胴部	外	-	
127	1992	E-7・IV	壺	胴部	-	-	外面剥落。
128	1992・1994	F-2・IV、3・III、5・IV、G-3・IV、5・IV	壺	胴部	外	-	内面一部剥落。磨滅。
129	1994	F-4・III	壺	胴部	外	-	内面剥落。
130	1992	F-6・V	壺	胴部	-	有	
131	1992	F-7・III	壺	胴部	外	-	
132	1994	G-5・IV	壺	胴部	-	-	内面一部剥落。
133	1992	G-5・IV	壺	胴部	-	有	内面一部剥落。
134	1992	G-5・IV、F-6・I	壺	胴部	外	有	外面剥落。
135	1992	G-5・IV	壺	胴部	-	-	外面剥落。
136	1992	G-6・IV	壺	胴部	外	有	
137	1992	G-6~5・カクラン	壺	胴部	外	有	外面・突起剥落。
138	1994	H-2・III	壺	胴部	-	-	磨滅。
139	1994	H-2・III	壺	胴部	外	有	
140	1994	H-4・III	壺	胴部	外	有	
141	1992	H-5・III	壺	胴部	-	有	内外面剥落。
142	1992	H-5・III	壺	胴部	外	有	磨滅。
143	1992	H-5・IV	壺	胴部	外	-	内面剥落。
144	1992	H-5・IV	壺	胴部	外	有	沈線浅い。磨滅。
145	1992	H-6・IV	壺	胴部	外	-	内面剥落。
146	1992	H-6・IV	壺	胴部	外	有	内外面剥落。
147	1992	H-6・IV	壺	胴部	-	有	外面剥落。

番号	調査年	グリッド・層位	器種	部位	赤彩	骨針	備考
148	1992	H-6・IV	壺	胴部	-	有	外面剥落。
149	1992	H-6・IV	壺	胴部	-	-	沈線浅い。内外面付着、二次被熱か。
150	1994	I-4・III	壺	胴部	外	-	磨滅。
151	1992	I-5・IV	壺	胴部	外	有	内外面剥落。
152	1992	I-6・IV	壺	胴部	-	有	外面剥落。
153	1992	I-7・IV	壺	胴部	外	-	
154	1992	I-7・IV	壺	胴部	外	-	外面剥落。磨滅。
155	1992	J-4・III	壺	胴部	外	-	
156	1992	K-4・III	壺	胴部	外	-	内外面一部剥落。磨滅。
157	1992	K-5・IV	壺	胴部	-	有	内外面一部剥落。
158	1994	D-5・IV	壺	底部	外	-	
159	1992	G-5・IV	壺	底部	外	有	
160	1997	-	鉢	口縁部	-	-	平行沈線文。
161	1997	-	浅鉢	口縁部	-	-	報Ⅳ、Ⅳ-5図89。
162	1997	-	浅鉢	口縁部	-	-	平行沈線文。磨滅。報Ⅳ、Ⅳ-5図90。
163	1997	-	浅鉢	口縁部	-	有	穿孔1単位。
164	1997	-	鉢	口縁部	-	有	口唇メントリ。平行沈線文。
165	1997	-	壺	口縁部	内外	-	突起剥離か。輪積痕。
166	1997	-	壺	口縁部	-	有	内外面剥落。報Ⅳ、Ⅳ-5図79。
167	1997	-	壺	口縁部	内外	有	報Ⅳ、Ⅳ-5図81。外面剥落。
168	1997	-	壺	口縁部	内外	有	外面剥落。
169	1997	-	壺	口縁部	内外	-	
170	1997	-	壺	口縁部	内外	有	
171	1997	-	壺	口縁部	外	有	内面一部剥落。口唇欠損。
172	1997	-	壺	口縁部	-	-	磨滅。口径(4.2cm)。
173	1997	-	壺	口縁部	内外	有	磨滅。
174	1997	-	壺	口縁部	-	-	口唇メントリ。
176	1997	-	壺	胴部	外	有	報Ⅳ、Ⅳ-5図83。
177	1997	-	壺	頸部	-	-	磨滅。
178	1997	-	壺	頸部	-	-	
179	1997	-	壺	頸部	外	有	外面剥落。磨滅。
180	1997	-	壺	頸部	-	有	内外面剥落。磨滅。
181	1997	-	壺	頸部	-	有	外面剥落。磨滅。
182	1997	-	壺	頸部	内	有	
183	1997	-	壺	頸部	内	-	
184	1997	-	壺	頸部	-	-	内外面一部剥落。磨滅。
185	1997	-	壺	頸部	-	-	無文。調整粗。
186	1997	-	壺	胴部	外	有	LR単節。報Ⅳ、Ⅳ-5図86。
187	1997	-	壺	胴部	-	-	LR単節。内外面剥落。報Ⅳ-5図85。
188	1997	-	壺	胴部	外	-	LR単節。内面剥落。
189	1997	-	壺	胴部	外	-	LR単節。
190	1997	-	壺	胴部	外	有	LR単節。内面剥落。
191	1997	-	壺	胴部	外	有	LR単節。
192	1997	-	壺	胴部	-	-	RL単節。
193	1997	-	壺	胴部	外	有	
194	1997	-	壺	胴部	-	-	内外面一部剥落。
195	1997	-	壺	胴部	外	有	190c:磨滅。二次被熱?
196	1997	-	壺	胴部	外	有	焼成不良。
197	1997	-	壺	胴部	-	有	沈線浅い。磨滅。
198	1997	-	壺	胴部	外	-	報Ⅳ、Ⅳ-5図87。
199	1997	-	壺	胴部	外	有	
200	1997	-	壺	胴部	外	有	調整粗。
201	1997	-	壺	胴部	外	有	
202	1997	-	壺	胴部	外	-	
203	1997	-	壺	胴部	外	有	
204	1997	-	壺	胴部	外	有	内面剥落。
205	1997	-	壺	胴部	外	有	内外面剥落。報Ⅳ、Ⅳ-5図82。
206	1997	-	壺	胴部	外	-	
207	1997	-	壺	胴部	外	-	
208	1997	-	壺	胴部	-	-	外面剥落。文様粗。
209	1997	-	壺	胴部	-	有	内外面剥落。
210	1997	-	壺	胴部	外	有	内外面一部剥落。
211	1997	-	壺	胴部	-	有	工字文。報Ⅳ、Ⅳ-5図88。
212	1997	-	壺	胴部	-	-	外面一部剥落。磨滅。
213	1997	-	壺	胴部	-	有	磨滅。
214	1997	-	壺	胴部	-	有	内面剥落。
215	1997	-	壺	胴部	外	有	外面一部剥落。磨滅。
216	1997	-	壺	胴部	外	有	
217	1997	-	壺	胴部	外	-	内面剥落。
218	1997	-	壺	胴部	外	有	
219	1997	-	壺	胴部	-	有	
220	1997	-	壺	胴部	外	有	焼成良好。
221	1997	-	壺	胴部	-	有	内面剥落。
222	1997	-	壺	胴部	外	有	
223	1997	-	壺	底部	外	有	
224	1997	-	壺	底部	外	有	